織方針の下に結成されたものではなく、只漠然と、從來の政黨的組織を廢止して、その實體に勞農同盟の名を冠したものにすぎなかつた。）

（ワ）では、何故我々は、その後、再び勞農政黨を、——勞農黨を樹立したか？それは、當時我々が、左の如き必要に迫られたからである。

（カ）我々の陣營は、勞働者農民黨解散後勞農黨結成の直前迄は、政治的勞農同盟の形態をとつてゐたがそこには、何等の執行機關も、議會鬪爭機關も存在して居なかつた、事實上政治的勞農同盟を運轉して居たのは、全國各地に配置されて居たプロレタリアート黨の勞農同盟フラクションであつた。ところが、一九二九年の四、一六事件を中心として、その後、××主義者に對する支配階級の兇暴なる追及が不斷に行はれ、爲に、プロレタリアート黨は大損害を受け、勞農同盟フラクションも事實上殆んど壞滅狀態に陷つてしまつた。當時數萬の大衆を擁してゐた勞農同盟は、斯くして、事實上にも形式上にも全くその統制機關を失つたのである。しかも資本家地主の攻勢は益々激化し勞働者農民の悲慘なる大衆的鬪爭は猛烈に要求されたのだが我々の陣營は、既に客觀的主觀的狀勢の變化に對する適應性を失つてしまつたので、全く不活ぱつな狀態を續けざるを得なかつたのである。あの場合、あく迄勇敢に戰ひ進む爲には、再び勞農政黨を樹立して、全國的統制機關を再建することが、絶對に必要だつたのである。

（ヨ）斯る必要に應じて、我勞農黨は、全國の戰鬪的勞働者農民の手によつて、つひに再建されるに至つたのである。當時我々は勞農黨結成の必要に關して大體左の如き點を强調した。

一、プロレタリアート黨が敵の數度の强襲によつてかなり徹底的な損害をうけた今日、我々は萬難を排して新勞農黨を樹立し、自ら全國的組織の再建をはからねばならぬ。

二、今や益々狂暴化しつゝある資本家地主並にその政府の攻勢と戰ひ、勞働者、農民無產市民の生活と自由を擁護する爲には、この際、新勞農黨を樹立することは絶對に必要である。

三、腐敗されたる左翼陣營の再建——殊に左翼勞働組合、農民組合を確立、擴大、强化、するために、及び、最近益々「バッコ」しつゝある社會民主々義者共と戰ひ、無產階級戰線を統一するためにも新勞農黨の樹立は必要である。

四、新勞農黨を樹立することなくしては、多年蓄積されて來た左翼の能力の、現下の分散化的傾向を防ぐことは不可能である。等々

（タ）以上に述べた勞農黨結黨當時の必要は、現在に於ても少しも減退されてゐない。否それどころか、最近に至つて、資本家、地主並にその政府の攻勢は益々激化し、勞働者農民無產市民の生活は今日、まさに餓死線下に追ひつめられようとしてゐる。しかも、左翼陣營の再建は遲々として進まず、勞働組合、農民組合の擴大、强化の要求は益々痛切に意識されて來てゐる。我々は斯かる情勢に直面して、我々、我勞農黨の存續の、絶對的必要を確信するものである。過去一年間の我々の經驗は、我々の確信を强めこそすれ、我々の確信を弱めるようなことは斷じて無かつた。

（レ）だが、無產政黨運動は、永久に勞農政黨として固定化せんとするものではない。去る第四回擴大中央執行委員會は、勞農黨の「勞農政治鬪爭同盟」への發展的解消に關して、明確なる方針を決定するに至つた。我々は、當面の客觀的主體的情勢の下に於てこそ、[illegible]わが勞農黨の存在が絶對に必要であることを確信してゐるのであるが、然しなるべく近き將來に於て、最も戰鬪的な「勞農政治鬪爭同盟」を樹立し、勞農政黨としての勞農黨を揚棄すべきだと考へてゐるのである。

二、勞農黨の任務

（イ）勞農黨の任務を要約すれば左の通りである。

一、左翼的指導方針のもとに勞働者と農民とを不斷に果敢なる政治鬪爭に動員すること。そして、さうすることによつて、勞働者と農民の鞏固なるブロックを形成することに努力すること。

二、それとの聯關に於て、左翼勞働組合、農民組合の擴大、强化に努力すること。

三、一切の社會民主々義者と戰ひつゝ、全被壓迫民衆を左翼の旗の下へ結集・統一することに努力すること。

四、勞働組合、農民組合と協力して全被壓迫大衆の日常經濟利益の擁護伸張のために努力すること。

（ロ）以上に述べたことは、我黨の綱領に明示されてゐるところの、我黨の中心任務であるが、これまでは、黨內に介在してゐた執拗なる社會主義者共（河上、細迫、小岩井の一派）にわづらいされて、わが黨のそれらの中心任務の重要性は、充分に理解されなかつた。そしてそのために勞働組合、農民組合、我黨の任務との間に混亂を來し、鬪爭方針に於ても組織方針に於ても、幾多の矛盾に逢着した。この際我々は、本大會を契機に我黨の任務を充分に鮮明する必要がある。

（ハ）先づ第一に、勞働者農民大衆を政治鬪爭に動員することの意義に關しては、一、勞働者、農民の鬪爭は、個々の資本家地主に對する鬪爭から、資本家地主の政治的權力に對する鬪爭にまで發展せしめられねばならぬこと。二、我國に於ては、勞働者と農民の政治鬪爭は、不斷に共同鬪爭の形態に於いて遂行されねばならぬこと等々の意義が充分徹底的に理解されねばならぬ。我黨に對する眞實の理解はそこから生れるのである。

（ニ）勞働者農民を政治鬪爭に動員するためには、何よりも殊に不斷の政治的暴露、大衆的アジ・プロが行はれなければならない。そしてそのためには、一、如何なる苦心を拂つても政治新聞を大衆の中へ持込むこと。二、あらゆる經濟鬪爭の過程において、マルクス主義イデオロギーを大衆の中へ侵透せしめること。三、ブルジョア議會、集會、演說、その他、あらゆる場面において不斷に徹底的な暴露を行ふこと。四、そして最後に最も肝要なことは、全黨員が勞働者農民大衆に對する支配階級の如何なるさゝいな暴壓に對しても敢然として身をテイして戰ふこと。等々。それらの努力が、不撓不屈に行はれてこそ、勞働者農民大衆は徐々にブルジョア意識から脫却して、マルクス主義的イデオローギーを戰ひ取り、果敢なる政